

### 書き損じハガキ、(未使用)切手を送ってください!



ご家庭や会社などで書き損じのハガキ、スタンプを押していない切手など眠っていませんか? 自立生活部門ではこれらを集めて活動資金にあてたいと思っています。ご協力をお願いします。

### ご協力ありがとうございます

- <後援会費を振り込んでいただいた方>(敬称を略させていただきます)
  - 泉原寛康 祝原静枝 中藤加奈子 柳久子 辻田悦子 石崎邦彦 山本研磨
- <カンパ・寄付をいただいた方>
  - 泉原寛康 赤川由里子 松本真弓 佐藤かよし 藤川里美 藤田綾子
- <書き損じハガキ・未使用切手・未使用テレホンカードをお送りいただいた方>
  - 沼田 西山範之 徳田早苗 武田伸二郎 原章子 田村崇 酒井待子
  - 谷山洋子 近畿車輛労働組合執行委員長・阪上実 南元 史子
  - 時愉空間・山田哲也 梅原義教 西尾心治
- <外へ飛び出すためのカンパをいただいた方>
  - 石崎邦彦 柳久子

### ありがとう



日本自転車振興会より  
パンジーⅡ設立に対しての多大な助成

中央競馬馬主社会福祉財団・(社)阪神馬主協会より  
ショートステイ送迎用の車両トヨタタウンエース・ノアの助成



東大阪ゴルフセンターより チャリティー寄付金

おかげさまでパンジーⅡというすごく良い建物が完成し、パンジーのメンバーだけでなくお客さんにも大好評です。また、新しい車は前の、同じくノアという車に対してノアⅡという愛称で呼ばれたりして、送迎のため西へ東へ大活躍です。チャリティー寄付金ではこれから新しくパンジーⅡではじめようとしている紙漉(かみすき)作業の機械や道具を購入する予定です。

これからも、障害者が地域で当たり前暮らすことができる社会にむけて、なおいっそうの努力をしていきたいと思ひます。今後ともよろしくお祈ひします。



パンジーでは  
後援会員を募  
集しています

賛助会員	1口	1ヵ月	500円
本会員	1口	1ヵ月	1,000円
特別会員	1口	1ヵ月	5,000円
郵便振替番号	00950-1-300551		
クリエイティブハウス「パンジー」			

編集人 東大阪市東鴻池町2-4-8  
 クリエイティブハウス TEL:0729-63-8818  
 “パンジー” FAX:0729-63-8825

発行人 関西障害者定期刊行物協会  
 大阪市城東区東中浜2-10-3  
 緑橋グリーンハイツ1F・アド企画気付

KSKR  
No.38



# パンジーだより

発行 2000年5月  
編集 クリエイティブハウス  
パンジー

川西あさき

## パンジーⅡオープン

4月3日、パンジーⅡのオープンセレモニーが開かれました。

ピカピカの建物で、パンジーⅡと自立生活支援センターわくわくの活動がスタートしました。メンバーも職員も新しいチャレンジへ向けて、第1歩を踏み出しています。



新メンバーを含めた全員が顔を合わせた4月10日には、豊中の作業所「いとおかし」の仲間たちが人形劇をしてくれました。



一九九六年五月一日

第三種郵便物認可

毎日発行

領価二五〇円

一九九六年五月一日

第三種郵便物認可

毎日発行

領価二五〇円

## パンジーⅡの誕生を契機に、 より地域の人々とつながりたい

創思苑・理事長 牧口一二

お隣、ご近所の人たちと、もっともっと親しく交流したい。そんな願いをこめて「パンジーⅡ」が誕生しました。これでパンジーは利用者と職員を合わせると100名ほどの大所帯です。さあ、いままで培った力や支えてくれた多くの仲間の力を得て、いよいよお隣り近所へ話しかけていく活動が本格化します。

パンジーⅡでは、まず取り組もうとしているのは「配食サービス」。そして今までやってきた「園芸作業」の充実です。配食サービスは、地域にお住まいの高齢者や食事作りが困難な人々などに、心をこめた昼食をつくり、メンバーが配達するもの。この活動により、地域の人々とのコミュニケーションは確実に密度の高いものになることが期待できます。是非、信頼されるよう、献立から衛生面まで万全の体制を整えているところです。

園芸活動は、従来のパンジー中庭とパンジーⅡの屋上が舞台。定期的にプロを招いてより充実した作業を行い、さまざまな草花をすくすく育てたいと、メンバーは大張り切り。そして、いろんなイベントでの販売、学校や保育園での行事での活用、地域の自治会とつながり公園の花壇など、緑化事業に取り組んでいきます。

このような活動を通して、利用者メンバーは地域の人々と交流を深め、人とのかわりを肌で感じ取って、仕事にも自信をもって臨めると思います。そこから就労への道すじが開ければ……と期待もふくらませています。

また、パンジーⅡでは「自立生活支援センター・わくわく」事業もスタートします。これによって地域のどこかでひっそりと暮らしている仲間と出会えればいいな、と思っています。そしてパンジーのメンバーとともに知的障害者にとっての自立の形をさがし続けていきたいと願っています。



いずれにせよ、パンジーのめざすものは、地域に開かれ、隣近所の人々との交流です。そして利用者が自立して地域に戻っていくことです。それに向けて一つひとつ具体的な活動を展開していこうと思っています。パンジーⅡの誕生を機会に、あらためて多くの方々のご支援をお願いいたします。

一九九六年五月一日

第三種郵便物認可

毎日発行

領価二五〇円



## 自立生活センターのめざすもの



### <支援とは？>

ピープルファースト運動の中では、介護者は支援者と呼ばれています。身体的な介護とは別に、知的障害を持った人たちの意志と行動を支える役割があるという意味でしょうか。自立支援という意味では重なるので、寄り道してみます。(以下、引用は『ピープルファースト ー支援者のための手引き』ビル・ウォーレル著 河東田博訳より)

① 知的障害者は、その意志を無視され、どうするのかはまわりに押しつけられてきました。ピープルファースト運動の中で、支援者の役割について「支援者は彼らを援助するのではなく、指導するのではない」といわれてきました。このことは、依然として踏み外せない一線であり続けています。

しかし他方で、「支援者にとって根本的な課題は、当事者が力不足であり、その上、力をつける方法を知らないことにある」という現状もあります。社会的に排除され、経験を奪われ、孤立させられてきた知的障害者が、抱えた気持ちをはっきりとした意志として言っていくこと、生き方を選択し行動していくことは、たやすいことではありません。仲間のつながりの中で、安心と自信を取り戻していくこと、社会的経験を重ねながら「自己決定」をできるスキルを身につけていく過程が不可欠です。

② 支援者は、当事者の後ろで手をこまねいているだけでは役割を果たせません。相手の気持ちを感じ取り、直面している壁を洞察しながら、当事者自らがその壁を突き破っていきける過程と一緒に歩いていくことが必要です。

「支援者にもっとも要求されることの一つは、当事者の声に十分に耳を傾け、彼らの視点でものを見ることである。十分に耳を傾けることのできない支援者は、最も重要な段階を踏み外してしまっているのである。」「まず、支援者が当事者から彼らのものの見方を学ばなければ、彼らに関係することを教えられるはずがない。」『知的障害』が理解力に及ぼす影響と、レッテルをはられた結果として体験してきている抑圧の影響を区別することが重要なことである。『知的障害』は恒久的なものであり、この状態はわずかしか変化しない。しかし、抑圧によって影響を受けるものは、とても否定的なものからとても肯定的なものへと変化させることが可能である。「どの人もふたが取られるのを待っている隠された才能をもっていると信じられない支援者は、大したことはできないであろう。」

③ 一歩間違えば誘導や強制に陥る危険と背中合わせのものです。勇気と、そして自分の誤りを率直に正す力を持ってしっかりと関わっていくことではないでしょうか。

「支援者の力について考える際、問題となるのは、『ピープル・ファーストの中で、支援者が大きな力を持っているか』ではなく、『当事者の権利を獲得し、擁護するための力をどのように使っているか』ということである。」

④ それは支援者自身が「どう生きたいのか」ということと重なっています。「良い支援者は、ピープル・ファーストとの関わり合いは自分の選択だということに気づいている。」「支援者として成功するための最も重要な要素は、その人のものの考え方にある。」

かけがえのない人間のつながりの中で困難を打ち破っていく快感がピープルファーストの活動にはあります。(広田)

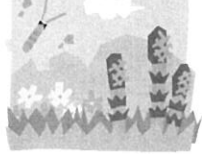
一九九六年五月一日

第三種郵便物認可

毎日発行

領価二五〇円

# 新人紹介



## 好川 朗さん

Q1:お年は? ご家族は?

32才。お父さん、お母さん、弟とわたしの4人家族です。

Q2:家では何してる?

ラジオかテレビでプロ野球を見てい

る。巨人ファンで、ピッチャーの桑田が好き。あのピッチャーは、いいピッチャーや。

\* 巨人の優勝は「3つ並んだらあり得る」らしい。

Q3:パンジーでの仕事は何してるの?

朝はパン屋さんとショップ、午後からはクリエイティブでさをり織りをがんばっています。パン屋さんでは配達に行ったり、パンを袋に詰めるという作業をしている。

ショップでは、机をふいたり、お客さんにお水を出したりしています。お客さんがリサイクル商品を買ってってくれるのがうれしくて、これからも続けていきたい。

さをり織りはパンジーの仕事の中で一番好き。織ること、糸の色を決めることも楽しい。これから新しい模様を織れるようになったらいいなと思っている。

Q4:パンジーでこれからどうしていきたいですか?

さをり織りの他に、ハンガーとかもしていきたい。

(1年後、どらえもん会の役員に立候補しませんか?) ……。(まだ考えていないそうです)

好川さんは大東園が運営する近所のグループホームにお住まいです。他のメンバーと話をしたりするのが好きで、面倒見もよく優しい人です。この日インタビューをしている時も、他のメンバーに話しかけたりして、大忙しの好川さんでした。(インタビュー:久保)



## 中山 千秋さん

中山千秋です。昨年の10月からパンジーに来ました。

毎日パンジーに来ていろいろな人に会えることがとても楽しいです。パンジーⅡに4月から通っていますが、配食サービスでお弁当を配達したり、園芸で苗を育てたりしています。

私は将来一人暮らしがしたいと思っています。それと演劇が好きで自分でも劇団に入って舞台に立ってみたいと思っています。パンジーでもなにかそういうことができたらなあと思います。これからもよろしくお願いします。



自



## パンジーⅡの開所を祝って

中新井 滯子

パンジーⅡの開所、おめでとうございます

そしてフレッシュなメンバー、スタッフの皆さん、ようこそパンジーへいらっしゃいました。なんて私が言うのもおこがましいのですが、私なりに新しい出会いを心待ちにしておりました。これからは、パンジーとパンジーⅡで、隔週にご一緒することになりますが、今まで同様よろしくお願いします。

パンジーⅡの所在地は、「中新開」。私の姓とは一字違いながら、東大阪歴40年の私も初めて聞く地名でした。オープンセレモニーの時に、地元の方に聞きましたら、旧村(吉田、吉原、今米など)にかこまれた中の新しく開かれたところだとのこと。なるほど。周囲はただいま建築ラッシュ。パンジーⅡも新築の一戸建て住宅とマンションには含まれていません。両隣ともお互い握手ができるくらい接近しているので、これはまず、ご近所仲良くやっていくことを考えなければなりません。

もう一つの環境資源が緩衝緑地公園で、これが南北1.9kmと細長くて広いのです。今のところ一般市民より散歩している犬の方が公園を満喫している感じです。気分転換、ストレス解消、体力維持増進などなど思い切り体を動かせる場がすぐ側にあるのはうれしいことです。この時期若葉と花がとても美しく、大いに活用してはいかがでしょうか。

開所前は新しい施設への期待と不安、慣れ親しんだ仲間やスタッフとの別れなどで、メンバーたちにも動揺が見られましたが、もう落ち着きをとり戻しました。と同時に新しいグループダイナミクスが生まれ、動きはじめています。パンジーⅡは集団力動のうずが生じやすい条件が揃っているようです。今後、この「うず」が個々のメンバーにどのような影響をおよぼす(盛り上げることもあり、引き込んでしまうこともある)か、少し注意深く見守っていきたいと思っています。

## 支援とネットワークを大切に

明るい屋上で園芸の作業



1993年、知的障害を持つ人たちが地域社会の中で一人の人間として暮らしていけることをめざしてパンジーがオープンしました。また、カナダで開催されたピープルファースト大会(知的障害をもつ当事者の世界大会)に初めて参加した年です。それから、7年がたちました。その間、何度かカリフォルニアに研修に行く中で、「元気のでる話」や、「講演」、サングループ事件をテーマにした「たちあがろう」を当事者の活動として作り出してきました。これらの活動は、「自分に自信を持つこと、そして、仲間同士支えあうこと」をめざしての当事者と支援者の

共同の活動でした。パンジーの7年間は、ピープルファースト運動の理念をどう実践していくかの思考錯誤の時期だったのかもしれませんが。

パンジーⅡがオープンしてすぐに、通ってきている人たちの間でもめごとが起こりました。考えすぎて右往左往している職員をしり目に、「暴力は絶対あかんで！サングループ事件のようになってしまふで！もうせえへんように約束してもらわなあかん！話し合わな！」という意見がメンバーからあがりました。みんなで話し合いを持ち、それぞれに意見を言い、仲間の大切さを確認しあいました。また、新しく通い始めた人たちの中に、入所施設や在宅生活を送ってきた人たちがいます。その人たちが不安や緊張を抱えながらも毎日通ってきたり、自立生活を始めたのを支えている姿をみると、ピープルファースト運動の理念が着実に根づいてきているのを感じます。

さて、私たちは、今回、「パンジーⅡ」と自立生活支援センター「わくわく」をオープンしました。パンジーⅡでは、地域の高齢者への配食サービスを始めました。わくわくでは、日々の活動がどれだけ当事者主体になるか、挑戦したいと思っています。

しかし、最近の社会情勢を見ていると、誰にとっても生き難く、どうしたらいいかわからないことが多くなり過ぎたように思います。パンジーに寄せられる相談にも頭を抱えることが多くなりました。こんな時だからこそ、たらいまわしにさせない支援とネットワークを大切にしていきたいと思っています。これからもよろしくお願ひします。(よしみ)



昼食当番でがんばるメンバー

## 5月9日より配食サービスをはじめました！

中新開2丁目でパンジーⅡをオープンしてから早一ヶ月が過ぎました。屋上の園芸スペースに植えた野菜の新芽が顔を出すように、ゆっくりとたくましくみんなの仕事として配食サービスが動き始めました。

この間、配食サービスを実践しておられる「北千里友友ヘルパー会」や「高槻いきいき福祉をめざす会」の方々に色々ノウハウを教えていただいたことが、少しずつ自分たちのものになりつつあります。この場をかりて感謝します。ありがとうございました。

4月後半から何度か試運転として、火・金曜日に40食のお弁当作りを試みました。朝一番から厨房スタッフが仕込み始めたおかずを、10時半頃から数名のメンバーで盛りつけします。エプロンと三角巾にマスクと手ぶくろをはめて、上手く分担しながら一つずつおかずをきれいにに入れて・・・。「できた！」と同時に、配達のスランバイをしているメンバーたちが「パンジー」とネームの入ったお弁当を持って出発。歩いて行くグループ、自転車で行くグループに分かれて行きます。メンバーのリーダーさんは「こんなやってみたかったんや」「みんなががんばっていいな！お客さんには丁寧にしていかなあかん。」と、長年パンジーでパンの仕事を通してお客さんとのつながりを作ってきた彼の経験は頼もしい限りです。「Nさん、



お弁当つめるの慣れたら弁当屋の就職考えられるで！」という言葉が飛んだり、その他のメンバーも歩いて配達に行くことを楽しみにしています。どうぞよろしくお願ひいたします。(にっちゃん)

☆3/5に中新開の南野医院で行われた昼食会風景。地域のお年寄りが気軽に集える場(デイハウス)をめざしておられます。

☆ここにもお弁当を届けています。高齢者の方たちの活動と連携して、誰もが安心して暮らせる地域社会をめざします。

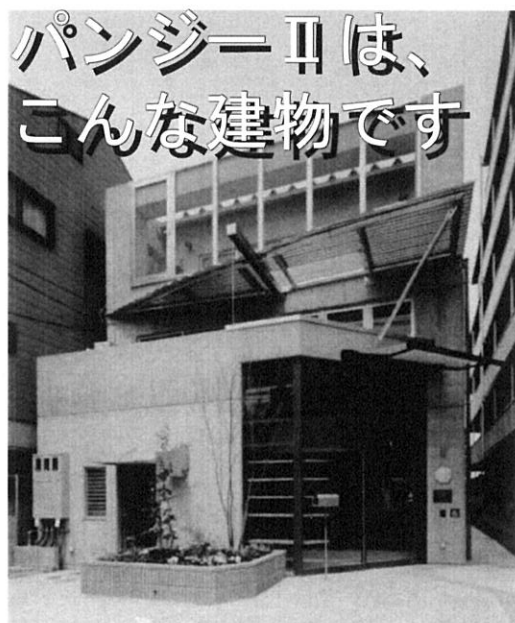
1食：500円。配達日：火・金曜日。無農薬・無添加食材を心がけています。みなさんのご意見をお聞きして、おいしいものを作ります。

連絡先：パンジーⅡ(中新開2丁目11-20)《平日9:00~17:00》

TEL: 0729-60-3612

FAX: 0729-60-3613

(関心のある方、ご希望の方、お電話お待ちしております)



## パンジーIIは、 こんな建物です

建物は「パンジー」と同じようなコンクリートの打ちっ放しで造られ、また施設建設でのコンセプトの一つである「自然・環境との共生」を実現すべく、環境にやさしい素材である「ケナフ」が室内の各所で使用されています。

南北に細長い敷地ながらも窓ガラスが大きく間取られているので、とても開放感あふれるものになりました。(玄関のポストもかわいい形をしています)

玄関を入ると一階は手前に食堂(写真左)そして中庭の横の廊下を奥に進むと、そこはメンバーの作業室にな



っています。なんと食堂の壁にはメンバーの手型がオブジェとして飾られたりもしています。現在メンバーの何人かが厨房に入り、みんなのおやつを自分たちの手で作ることもあり、食堂は活気でいっぱいです。



二階は事務所と会議室、ショートステイの部屋があります。「わくわく」はここを拠点にして、メンバーや地域の障害者の自立支援に取り組んでいきます。

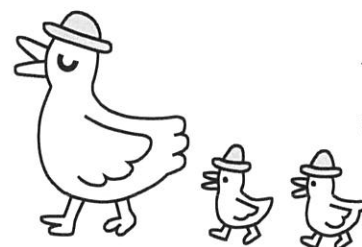
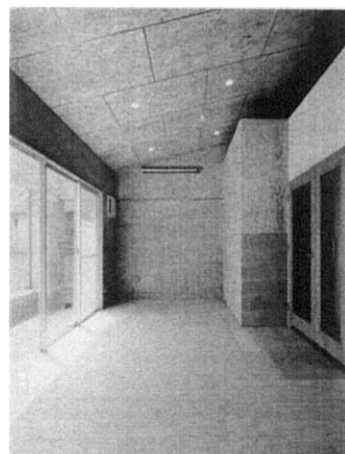
三階には地域交流スペースとして大きな部屋(写真下)が用意され、園芸のできる屋上では配食サービス用の野菜や「ケナフ」の苗木を育てようかと思案中です。

最後に全体を眺めての個人的な感想ですが、障害者福祉の先を目指し続けるパンジーにふさわしいものが

きたのではないかと思います。

パンジーが持つこの現代的なセンスが、当事者支援にどれだけの力を発揮することができるのか、パンジーIIとともにスタートした私自身と重ねて、これから努力し続けたいと思います。

新人職員からのレポートでした。(ふくおか)



## パンジー前の府営住宅で グループホームてくてくも始まった

グループホームがまた一つ増えました。

場所は、なんとパンジーの目の前の府営住宅。引っ越しをした4月25日、入居者の福田さんがベランダからパンジーの人に「オーイ！」と声をかけたら、下からパンジー前にいた介護者が手を振っていました。(あんまり大声は出さないようにしましょう)

名前は「てくてく」、メンバーの人たちがつけたのですが、「ゆっくり歩いていこう」という意味だそうです。

残念なことに入居した8階にはエレベータが停まらないため、車いすの人は使えません。でも「てくてく」の柱になる肌勢さんと福田さんは、この1年、鴻池新田の府営住宅にあるグループホーム「青空」で暮らしてきました。経験も豊富です。近所の人たちとの出会いや、車いすの人たちも含めた交流をきつと作り上げてくれるでしょう。

自治会の方々とお話しさせていただいてわかったのですが、福田さんの小学校時代の先輩の方と、肌勢さんの歯医者への通院ヘルパーをしてくださっていた方が、同じ棟にお住まいです。早速メンバーに報告したら、福田さんは「キャホー」と喜びの声、肌勢さんはニンマリとうなずいていました。「つばさ」「あゆむ」「青空」「てくてく」、4つのグループホームで17人のメンバーが地域での自立生活の道を歩んでいます。担当職員になった野村・吉田光枝は目をまんまるにしてふんばっています。ベテランの介護者の人たちは、しっかりと手応えでメンバーを支えています。



入居した住宅の前で。前列、肌勢さん、後列左から小松原君、福田さん、平石さん、岩田さん

これまでも増したご支援、よろしくお願いします。

(広田)